

七日 磐城時報

編輯者 石城郡平野町 岡田 弘成
印刷所 石城郡平野町 磐城時報印刷所
電話 二四二
代金 一月三圓 三月九圓 半年一七圓 一年三三圓
廣告費 一行一圓 一月三圓 三月九圓 半年一七圓 一年三三圓
日刊 (日曜、祭日、休刊)

凱旋將軍を迎え

町民白熱的歓迎

滿洲事變の戦死者 十一名の遺族を慰問

武勳輝やく吾等の凱旋將軍多門行された滿洲事變戦死者十一君第二師團長は昨報の如く七日午の慰霊祭に臨み祭文を朗讀同所前時三十三分着列車で来平にて食後の後第一小學校に至り青沼町村長會支會長その他小川午後一時から校庭に於て一千余郷隣まで出迎え平野町内には縣名の聴衆に實戦談をなし多大の會議員、在郷軍人分會關係者、感動を興へ、終つて第一校講堂その他多數の出迎えをうけ下車に催された國防研究會の發會式後直ちに驛前に於て滿洲事變の臨み午後三時から第二校講堂戦死者飯野村山崎一好外十君のに於ける歡迎會場に於て講演を遺族に慰問の辭を述べ副官を通なし午後六時から住吉屋本店に於て金一封を贈り直ちに自動車に於ける歡迎會に臨み同所に一に乗り警察署通り木町總て兩側泊した。明八日午前八時平野驛發に歡迎の群衆堵列する中を松ヶ相馬郡に向ふ筈である。

國防研究會發會

國民の覺悟を決議

會長以下役員任命

平國防研究會發會式は多門將軍の實戦談、の來平を機とし七日午後一時か騎兵第二聯隊長小島大佐の講演から第一小學校庭で舉行、定刻があり閉式した。役員並に決議國旗を掲揚し開會の挨拶に次いで左の如くである。

▲會長 青沼隆太郎
▲副會長 柏原幸次郎、多田井笑
▲幹事 鈴木長三郎、佐川三郎、藤井一、小泉英治、太田玄範
▲關内正一、佐藤伊太郎、太田俊徳

は速に脱退の手續きを完了すべし
平國防研究會
趣意
國際聯盟における我が帝國の正義と主張は加盟列國の偏見と空想的机上論に禍され遂にその容るるところとならず驟然起つて快を別たさざるべからざる運命に逢着せり。事茲に及んでは國民はまず、その團結を堅ふし舉國一致難に處する覺悟と決心を喚起高調すると共に速かに國防の充實と完備に邁進せざるべからず。こゝに國防研究の團體を組織し皇道の發揚と國防の擴充完成に寄與するは現下における絶對的喫緊事にして又非常時來た事から組合ではしばしば國民の正に努むべき重大使命なりと信ず。敢て愛國の士を糾合し平國防研究會の創設を提唱する所以なり。

小川江筋の改修

三十万圓で改修

三ヶ年の繼續事業

其の昔平野藩士澤村勘兵衛勝爲が代合計二千圓の固定収入あるに渴水に悔む四倉町外七ヶ村の水狗はらす多年收支決算を明かに田一千餘町歩に灌漑水路を作るせず、ために昨年末の組合總會にため一命を賭して山腹七里餘を席上で問題となり兩派にわかれ開鑿し自然の流水によつて灌漑をつひに傷害事件まで起りその水を潤澤にし往年の荒田は忽ちため平野に探知されたものであり美田と化した、當時全國稀に見るが、同課會計係木田仙太郎氏を以て小川江筋も夏井川上流小川村を以てはじり村議等の身邊は危されざるべからず。

青年團總集會で

知久少佐の實戦談

石城郡第三方面青年團總集會はの純益金を以て償還に充當する七日前九時から平野町集會館に開き團員一千名出席、團員數名の演説あり、午前十一時から約二時間に亘り野砲第二聯隊知久少佐の實戦談があり午後八時八萬少佐の實戦談があつて午後四時會館に散會した。

四倉漁業組合

起債認可申請

石城郡四倉漁業組合では今回一萬七千三百五十五圓を起債するこゝになりこれが認可を知事に提平署では石城郡赤井村有林野時平署高橋司法主任、菊地警部出したが、利率は年五分以内、保護組合によつては財産使途不補が同村に出張關係者の取調へ借入先は縣農工銀行廿ヶ年年賦明事件を探知し過日來内債中のを開始した、同組合は年に一千圓の土地貸代と千圓の木材買却

平署の司法係

赤井村に出張

赤井村に出張關係者の取調へ借入先は縣農工銀行廿ヶ年年賦明事件を探知し過日來内債中のを開始した、同組合は年に一千圓の土地貸代と千圓の木材買却

四倉驛二月成績

四倉驛二月分の取扱成績左の如し。
貨物發送七千三百八十八噸四分、到着一萬四千八百三十三噸三分、發送貸金二萬一千五百三十三圓、二十四錢、乗車一萬二千二百二十圓ひでた。

四倉局成績

局二月分取扱件數左の如し。
貯金受壹千七百七十五口二萬六千九百九十二圓五十八錢、拂出四百九十三口二萬三千三百二十六圓二十三錢、爲替受入四百口八千二百二十八圓五十九錢、拂出四百二十四口一萬一千四百八十八圓十二錢

衣類を寄附

罹災民に
平町北町安田チウ(六四)さん、は七日平野町役場を訪れ三陸地方罹災民に衣類數点を寄附した。

二十一年下の青年

駈落した老婆
御詠歌が取持つ縁
一人、降車一萬四千四百八十八、乗車貸金二千八百二十九圓九錢、手荷物發送二百四十九個、到着二百三十九個、小荷物發送六百七個、手荷物發送貸金二千三百九十九圓九十七錢

草野小頗異動

第三部長小頗新妻義昌氏辭職、後任として小頗に篠崎庄左衛門氏、第三部長に作田稔氏任命された

妻子を捨て駈落

石城郡内郡村大字宮吉田龍造(三一)は家族を呼び寄せる約束で昨年二月北海道に出稼ぎした儘音沙汰がないので残された妻みよは夫からの便りを樂しみに幼児二人を抱へ辛くもその日を暮らしてゐたが、瀧造は無情にも樺太豊原郡三井川上炭礦で情婦と同棲してゐるこの話を聞き込み平人事相談所に夫の説諭方を頼んで貰ふた。

入所生勸誘

平野町青年訓練所では逐年入所生の激減に鑑み入所生募集のため今年度は非常時に備へよのポスター及び宣傳ビラを五日全町に配布した。

入所生勸誘

平野町青年訓練所では逐年入所生の激減に鑑み入所生募集のため今年度は非常時に備へよのポスター及び宣傳ビラを五日全町に配布した。

當籤番號發表

一等 二等 三等 四等 五等

008	001	006	132	003	149	219
099	004	011	140	007	151	222
計 2 本	024	013	150	009	154	230
	030	069	156	014	158	238
	055	026	185	015	161	247
	098	029	190	028	163	255
	110	034	202	031	172	261
	115	062	210	050	180	262
	131	075	233	052	184	266
	203	080	248	077	187	272
018	207	095	265	082	192	277
045	246	097	271	086	198	280
053	273	102	274	089	200	290
085	291	109	286	111	201	292
263	300	126	299	122	204	295
計 5 本			計 30 本	124	205	296
				133	211	
				計 50 本		

(各組共通)

天地堂新築落成紀念。蓄音器。萬年筆及レコード抽籤券附特賣以來、御陰様を以て豫想以上の好績を得まして一月廿四日限り賣り切れと相成りました事は各位の熱誠なる御聲援の賜と厚く御禮を申上ます。就ましては特賣規定に基き關係者立會の上厳正なる抽籤の結果、當籤致しました番號を發表致します。

賞品引換期間 昭和八年三月十日より 同 年四月十日まで (期限後は無効とす)

天地堂

平町三丁目 電話五八九

ヒクタイ蓄音器 特別代理店
コロムビア蓄音器 發賣元
コサツク蓄音器 發賣元
コサツク萬年筆 發賣元

生徒募集

光輝ある歴史
堅實なる學風

磐城佑賢學舎

中等科(中學程度)
女子部(高女程度)
入學願書四月四日迄

平 町 南 町
山 城 町 平
(番 三 九 話 電)

平看護婦會

會長 清野キヨ
平町字南町 電話三〇七番

看護婦派出の需めに應じます

丸ほん商店

平町三丁目 電話三五九
製作所 平町新田前 電話一八二

募集廣告

- 一、和洋家具製作徒弟 十名
- 一、西洋塗徒弟 一名
- 一、椅子張徒弟 一名

(イ) 本年尋常又ハ高等卒業ノコト
(ロ) 身體健固ニシテ意志強固ナルコト
右希望者ハ自筆履歴書ニ學術成績表ヲ添ヘ至急御申込ヲ乞フ

私立磐城青年學校

創立明治四十年 規則書申込次第進呈

復興第五年生徒募集

第一學年 壹百名
第二學年 若干名

入學資格 小學校卒業以上
出願期日 四月四日迄
新學期開始 四月四日

福島縣平町城山

店員募集

千家表流茶道教授 松遊庵梅雨
古流生花教授 松玉齊織田理徳

平町字南町 電話五三三番

年歲 十四五歳の店員御希望の者
學歷 小學校卒業程度
多數入用に付御來談被下度し

平町鍛冶町 吉田屋吳服店 電話二二二番

花柳病科 專門

平町六丁目橋際 木村外科醫院 電話三〇九番

專門 內科 一般

〔內科ハ何デモ診療致マス
呼吸器病バカリデハアリマセン〕

平町南町六五改(電話一八一番)

川井内科診療所
醫學士 川井重之
女醫 川井安子